

# アグロマックス™ 水和剤

## 園芸用除草剤

イネ科から広葉まで幅広い雑草を防除！

上手に使うためのポイント

- 乾きすぎや湿りすぎの土壌では散布を控える。
- 散布後に降雨が予想される時は使用をさける。
- 土壌にムラなく均一に散布する。



全面土壌散布で  
しっかり雑草防除！

## ■適用作物及び使用方法

使用方法：全面土壌散布

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	プロピザミドを含む農薬の総使用回数
			薬量(g)	希釈水量(ℓ)		
レタス(秋播栽培)	一年生雑草 (キク科、 カヤツリグサ科を除く)	は種覆土後雑草発生前 但し、は種14日後まで	200~300	70~100	1回	1回
レタス(春播栽培)		定植後雑草発生前 但し、定植14日後まで				
キャベツ		定植前				
ブロッコリー		定植後雑草発生前 但し、定植14日後まで				
しゅんぎく		定植直後雑草発生前				
たまねぎ(春播栽培)	一年生広葉雑草 (キク科、カヤツリグサ科を除く)	定植後雑草発生前 但し、収穫45日前まで	300	100	2回以内	2回以内
たまねぎ(秋播栽培)	一年生イネ科雑草	は種後発芽前雑草発生前	200~300			
ごぼう(べたがけ栽培)	一年生雑草 (キク科、 カヤツリグサ科を除く)		100~200			
ごぼう			200~300			
きく			200~400			
もりあざみ		150~200				
チコリ	は種後発芽前雑草発生前	300	300	1回	1回	
チコリ(根株)	定植後または中耕後雑草発生前 但し、収穫60日前まで					2回以内

### 雑草の状況チェック

- 本剤はキク科、カヤツリグサ科には効果が劣るので、キク科、カヤツリグサ科雑草優占の場合には使用をさけてください。
- 本剤は雑草の発生後では効果が劣るので、散布は必ず雑草の発生前に土壌全面に均一に行ってください。

### 作物の状況チェック

- 移植をする作物では、根が露出するような浅植えをさせ、丁寧に移植を行ってください。
- ごぼうのべたがけ栽培では薬害が生じやすいので注意してください。

### 圃場の状況チェック

- 碎土、整地、覆土は丁寧にすること。特に水稲後作や水田転換畑では、土壌水分が適湿な時に丁寧に耕起作業を行ってください。
- 極端な乾燥土壌または過湿土壌での使用をさけてください。特に水稲後作や水田転換畑では、畝間に水がたまるなど過剰な土壌水分条件下の使用はさけてください。
- 砂土や礫を含む土壌での使用はさけてください。

### 天候の状況チェック

- 散布後に降雨が予想される時は使用をさけてください。

### 散布時のチェック

- 散布は噴霧状にならないよう注意すること。特に定植後処理では吐出圧を下げ土壌全面に均一に行かない、重複散布をさけてください。
- 定植後散布の場合、他剤との同時施用や展着剤の使用はさけること。又他剤との近接散布の場合、少なくとも前後一日の間隔をあけてください。
- 桑葉にかからないように注意してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。散布器具の洗浄水等は、河川等に流さないこと。また、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

## 上手な使い方

- 保水性の高い水田転換畑や、イネ後作のキャベツ・ブロッコリー(移植)では200g /10aの薬量で使用してください。又、11月から翌年3月までの低温期の使用を避けてください。
- キャベツ・ブロッコリーでの定植後散布では薬液がキリ状にならないような低い散布圧(10kgf/cm<sup>2</sup>を越えない程度)で使用してください。殺虫剤や殺菌剤散布時のような高圧でキリが立つような噴霧処理は薬害の原因になります。
- 軟弱徒長苗、老化苗では使用しないでください。
- イネ後作のたまねぎでの使用に際しては注意が必要です。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋は圃場等に放置せず、適切に処理してください。
- 防除日誌を記載しましょう。

製造販売

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

〒100-6110 東京都千代田区永田町2丁目11番1号

山王パークタワー

https://www.corteva.jp/



取扱

本資料は2019年9月現在の知見に基づき、作成されています。